令和５年９月 21 日
教育委員会９月定例会
報告事項
学校教育部教育指導課

令和５年度（2023 年度）　学力等調査の結果について

子どもたちに「確かな学力」を育むためには、学校だけでなく家庭や地域のご協力が必要です。子どもたちの学力や学習状況の現状を理解していただくとともに、学校教育活動にも積極的なご支援をいただくためにも、本年度も本市の状況および課題について公表することとしましたので、ご理解いただきますようお願いいたします。

１　横須賀市立小・中学校学習状況調査

小学校２～５年生と中学校１・２年生を対象とした「横須賀市立小・中学校学習状況調査」について、令和５年４月 13 日(木)～４月 21 日(金)に教科調査を、同年５月１日(月)～５月 31 日(水)に質問紙調査をそれぞれ実施しました。

本市が実施している学習状況調査は、各学年、各教科概ね 13 万人から 20 万人が参加しています。他の自治体でも本市の学習状況調査と同一の問題を用いて実施しており、本市の結果を全国の状況と比較することができます。

本市では、限られた教科および学年での実施であることやそれぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことからも、調査結果が児童生徒の学力すべてを表すものではなく、学力や児童生徒の生活習慣の一側面を示すものと考えています。

しかし、本学習状況調査の結果を児童生徒の学習状況を客観的に把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のために役立てていきたいと考えています。

（１）調査の概要

ア　調査の目的

横須賀市立小・中学校学習状況調査を実施し、横須賀市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、その調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善および児童生徒の学習に役立て、横須賀市として必要な施策の策定に資することを目的としています。

イ　調査事項

小学校２～５年生：①国語（聞き取り　有）　②算数　③質問紙
中学校１・２年生：①国語（聞き取り　有）　②数学　③質問紙
※各学年・各教科、前学年までの履修内容を出題範囲としています。

ウ　公表について

本市全体の状況及び課題について、公表いたします。
※序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

（２）横須賀市立学校の教科別結果

【小学校２年生】

	国　　語			算　　数		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
全国平均正答率	76.9	85.7	60.6	82.9	87.5	63.0
本市平均正答率	70.8	80.2	53.3	79.3	84.2	58.2
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	92.1	93.6	88.0	95.7	96.2	92.3

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では7.9ポイント下回りました。また、基礎において6.4ポイント、活用において12ポイント下回りました。

各領域において、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「読むこと」は８ポイント程度、「書くこと」は13ポイント程度下回りました。

条件に沿って書く作文の無解答率が本市は28.7%と高く、「書くこと」への抵抗をなくしていけるような指導が必要です。

【算数】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では4.3ポイント下回りました。また、基礎において3.8ポイント、活用において7.7ポイント下回りました。

各領域において、「数と計算」、「図形」、「測定」は全国平均正答率と同程度でしたが、「データの活用」は全国平均正答率を９ポイント程度下回りました。

「数と計算」において、示された減法の式から、適切な文章問題を作る問題では、全国平均正答率を14ポイント下回りました。加法・減法の学習において、具体的な場面を通して式が何を意味しているのか言葉で説明したり、示された式にあった文章問題を作ったりすることができるような指導が必要です。

【小学校３年生】

	国　　語			算　　数		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
全国平均正答率	72.5	80.0	57.6	74.6	80.3	54.3
本市平均正答率	65.2	72.6	50.5	71.0	77.0	49.4
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	89.9	90.8	87.7	95.2	95.9	91.0

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 10.1 ポイント下回りました。また、基礎において 9.2 ポイント、活用において 12.3 ポイント下回りました。

各領域において、「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「書くこと」、「読むこと」については、いずれも７～８ポイント程度下回りました。

条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 42.6%と高く、目的意識と相手意識をもちながら書くことに慣れる指導が必要です。

【算数】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 4.8 ポイント下回りました。また、基礎において 4.1 ポイント、活用において９ポイント下回りました。

各領域において、「数と計算」、「図形」、「測定」、「データの活用」のいずれも、全国平均正答率と同程度でした。

「数と計算」において、加法の結合法則を用いて、考え方に合うように式に括弧を書く問題では、全国平均正答率を８ポイント程度下回りました。また、「図形」において、理由を記述する問題の無解答率が本市は 39.7%と高く、正答率も低いことから、長方形と正方形の特徴やその違いについて理解を深める中で、数学的な表現を用いて論理的に説明することができるような指導が必要です。

【小学校４年生】

	国　　語			算　　数		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
全国平均正答率	70.8	75.8	59.7	71.9	76.0	59.5
本市平均正答率	64.2	69.6	52.3	67.0	70.9	55.4
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	90.7	91.8	87.6	93.2	93.3	93.1

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 9.3 ポイント下回りました。また、基礎において 8.2 ポイント、活用において 12.4 ポイント下回りました。

各領域において、「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は７ポイント程度、「情報の扱い方に関する事項」は８ポイント程度、「書くこと」は 10 ポイント程度下回りました。

条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 38.7%と高く、理由を明確にして自分の意見を論理的に書く指導の継続が必要です。

【算数】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 6.8 ポイント下回りました。また、基礎においては 6.7 ポイント、活用において 6.9 ポイント下回りました。

各領域において、「数と計算」、「図形」、「データの活用」は全国平均正答率と同程度でしたが、「測定」は全国平均正答率を６ポイント程度下回りました。

「測定」において、１㎜や１mL を何倍すると１ｍや１L になるかを選ぶ問題は、全国平均正答率を 14 ポイント程度下回りました。単位の関係や単位換算の手順について確認するとともに、実際に長さやかさなどを測定する活動を大切にして指導する必要があります。同じく「測定」において、理由を記述する問題の正答率が、本市は最も低く、無解答率も 19.7%でした。数学的な表現を用いて論理的に説明したり、判断や考えの正しさを説明したりすることができるような指導が必要です。

【小学校５年生】

	国　　語			算　　数		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
全国平均正答率	70.0	74.5	59.7	67.1	71.2	59.3
本市平均正答率	65.0	69.4	55.3	58.3	62.5	50.2
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	92.9	93.2	92.6	86.9	87.8	84.7

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では7.1ポイント下回りました。また、基礎において6.8ポイント、活用において7.4ポイント下回りました。

各領域において、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は６ポイント程度、「書くこと」は８ポイント程度下回りました。

条件に沿って書く作文の無解答率が本市は29.8%と高く、各児童のつまずきの内容に応じた「書くこと」の指導の充実が必要です。

【算数】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率では、全国と比較して教科全体では13.1ポイント下回りました。また、基礎において12.2ポイント、活用において15.3ポイント下回りました。

各領域において、「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」のいずれも、全国平均正答率を８～９ポイント程度下回りました。

「数と計算」において、小数第一位－小数第二位の計算問題は、全国平均正答率を14ポイント下回りました。また、「数と計算」、「図形」において、理由を記述する問題の無解答率は、本市は36.0%、37.5%と高く、正答率も低いことから、自分や仲間の考えを論理的に説明し、伝え合う活動を通して、数学的な表現を用いて記述できるような指導が必要です。

【中学校１年生】

	国　　語			数　　学		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
全国平均正答率	59.2	64.0	49.9	65.8	67.5	61.0
本市平均正答率	55.5	60.8	45.6	62.4	64.4	56.8
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	93.8	95.0	91.4	94.8	95.4	93.1

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では6.2ポイント下回りました。また、基礎において５ポイント、活用においては8.6ポイント下回りました。

各領域において、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「書くこと」は７ポイント程度下回りました。

条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 38.1%と高く、資料から読み取ったことを根拠としながら自分の考えを述べる指導の充実が必要です。

【数学】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 5.2 ポイント下回りました。また、基礎において 4.6 ポイント、活用において6.9ポイント下回りました。

各領域において、「数と計算」、「図形」は、全国平均正答率と同程度でしたが、「変化の関係」、「データの活用」は、全国平均正答率を４ポイント程度下回りました。

「変化の関係」において、単位量あたりの値を求める式が、どのような数量を表す式かを説明する問題の無解答率が、本市は 28.0%と高く、また正答率も低いことから、単位量あたりの大きさについて小学校の学びを振り返る場面を設ける必要があります。

【中学校２年生】

	国　　語			数　　学		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
全国平均正答率	63.9	68.7	54.8	53.4	59.5	35.9
本市平均正答率	60.8	66.2	50.6	50.0	55.7	33.5
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	95.1	96.4	92.3	93.6	93.6	93.3

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 4.9 ポイント下回りました。また、基礎において 3.6 ポイント、活用において 7.7 ポイント下回りました。

各領域において、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「書くこと」は５ポイント程度下回りました。

条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 24.5%と高く、資料から読み取ったことを根拠としながら自分の考えを述べる指導の充実が必要です。

【数学】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 6.4 ポイント下回りました。また、基礎において 6.4 ポイント、活用において 6.7 ポイント下回りました。

各領域において、「数と式」、「図形」、「関数」は全国平均正答率と同程度でしたが、「データの活用」の全国平均正答率は６ポイント程度下回りました。

「データの活用」において、２つの度数折れ線から、ある傾向が強いと思われる一方を選び、その理由を説明する問題は、全国平均正答率を６ポイント程度下回りました。また、「数と式」において、与えられた文章題に対して、適切な式を立式する問題の無解答率が本市は 34.0%と高く、正答率も低いことから、問題の中から何を x と置き、二通りに表される数量を見いだし方程式を立てる一連の活動の充実が必要です。

学年・教科によって傾向は異なりますが、全ての学年・教科において、本市の児童生徒の平均正答率は、全国の児童生徒全体の平均正答率を下回っています。

各学年・教科の課題については結果とともにお示ししています。また、各学年・教科の指導改善のポイントについては、各学校に示します。

学年・教科によっても異なりますが、理由を説明したり、条件に沿って作文を書いたりするなど、記述することに課題が見られる傾向があります。教科を問わず、日々の授業において、自分の考えを表現したり、記述したりする力を伸ばすことができるよう、引き続き授業改善を図ります。

（３）横須賀市立学校の質問紙調査結果

質問紙調査における個々の質問を、表に示すカテゴリーに分類しています。それぞれのカテゴリーに分類される一つ一つの質問について、「最も望ましい／良好な選択肢」「次に望ましい／良好な選択肢」「改善／配慮を要する選択肢」「特に改善／配慮を要する選択肢」を点数化し、どの程度の児童生徒が肯定的な選択肢を選んだかを数値化しています。その数値をさらに、全国平均を 50 とする偏差値として算出した値を示しています。したがって、値が大きいほど肯定的な回答をした児童生徒の割合が高く、また値が 50 に近いほど全国に近いことが分かります。

		小２	小３	小４	小５	中１	中２
自己認識	家族のささえ	50.6	50.0	50.2	50.0	50.2	49.1
	友だちのささえ	49.8	50.5	50.2	49.6	49.8	49.4
	先生のささえ	50.8	49.9	50.4	50.1	49.8	49.0
	成功体験と自信	49.9	50.4	50.7	49.8	50.5	50.1
	充実感と向上心	50.1	50.4	50.5	49.6	50.1	49.5
	感動体験	50.7	50.3	50.1	49.9	50.9	50.1
	他者からの評価	—	50.5	50.3	49.8	50.6	50.8
社会性	規範意識	50.1	50.5	50.6	49.2	49.4	48.3
	思いやり（人間関係構築力）	50.9	50.7	50.6	49.6	50.1	49.4
	発信力	50.6	50.8	50.8	49.9	50.4	50.6
	対話・話し合い	51.1	50.6	51.0	50.7	52.9	52.4
	社会参画	—	—	—	49.0	50.1	48.4
学級環境	学級の規範意識	50.0	49.4	49.6	49.7	49.5	48.3
	学級の絆	51.0	50.0	50.3	50.1	50.7	49.2
	いじめのサイン	49.1	48.4	47.8	48.4	49.1	48.0
	対人ストレス	50.0	49.4	48.7	48.5	47.9	48.2
生活・学習習慣	生活習慣	49.4	49.6	50.3	50.0	49.6	49.1
	学習習慣	49.5	49.1	48.5	47.2	47.6	47.8
	学習意欲	49.6	50.1	50.3	50.0	50.5	49.1

※発達段階に合わせて質問が設定されているため、学年によって質問のない項目があります。

自己認識にかかわる項目については、いずれの学年においても全国とほぼ同程度と捉えることができます。社会性にかかわる項目のうち、「対話・話し合い」については、全ての学年において全国を上回っており、各校の学習活動において対話や話し合いを多く取り入れているとともに、児童生徒がその意義を実感していると捉えることができます。

学級環境にかかわる項目のうち、「いじめのサイン」「対人ストレス」については、全ての学年において下回っており、いじめやその兆候、人間関係の不安を感じている児童生徒の割合が全国と比較して高いと捉えられます。一人一人の状況を積極的に把握し、適切な指導及び支援を行うことが求められます。

生活・学習習慣にかかわる項目のうち、「学習習慣」については全ての学年において全国を下回っています。「学習意欲」については全国とほぼ同程度であることから、学習意欲を家庭での学習習慣につなげることができるよう、指導改善を図る必要があります。

２　全国学力・学習状況調査

小学校６年生と中学校３年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月 18 日（火）に実施されました。

本市では、限られた教科および学年での実施であることや、それぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことからも、調査結果が学力すべてを表すものではなく、学力や児童生徒の生活習慣の一側面を示すものと考えています。しかし、本調査結果を児童生徒の学習状況や生活状況を把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のために役立てていきたいと考えています。

（１）調査の概要

ア　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

イ　児童生徒に対する調査事項

（ア）教科に関する調査

＊小学校調査は、国語、算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。

＊出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②　知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

＊調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

（イ）質問紙調査

＊学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

ウ　公表について

本市全体の状況及び課題について、公表いたします。

※序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

（２）横須賀市立学校の教科別結果

【小学校６年生】

	国　　語	算　　数
全国平均正答率	67.2	62.5
本市平均正答率	63	59
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	93.8	94.4

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して6.2ポイント下回りました。

各領域において、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれも、全国平均正答率を５ポイント程度下回りました。

全国平均正答率と大きな差があった問題は、いずれも記述式の問題であったことから、資料や根拠をもとに、条件に合わせて自分の考えを記述する力の育成が課題となっています。

【算数】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して5.6ポイント下回りました。

各領域において、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」のいずれも、全国平均正答率と同程度でした。

全国平均正答率と大きな差があった問題は、「数と計算」における加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりして計算する問題で、９ポイント程度下回りました。分配法則についての理解を深めるとともに、多数桁の乗法の計算を確実にできるように指導することが必要です。

【中学校３年生】

	国　　語	数　　学	英　　語
全国平均正答率	69.8	51.0	45.6
本市平均正答率	68	49	47
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率	97.4	96.1	103.1

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して2.6ポイント下回りました。

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率は、全国平均正答率を大きく下回りましたが、それ以外の問題については、全国平均正答率とほぼ同程度という結果でした。

記述式の問題形式（全４問）については、無解答率がすべて全国平均を下回るなど、これまでの指導の成果がうかがえます。

【数学】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して3.9ポイント下回りました。

各領域において、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」いずれも、全国平均正答率と同程度でしたが、「データの活用」のうち四分位範囲を求める問題は、全国平均正答率を７ポイント程度下回りました。

記述式の問題の中でも、結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つことを見いだし説明する問題の無解答率が 25.4%と最も高く、事柄が成り立つことの説明を振り返り、新たに成り立ちそうな事柄を予想する活動を取り入れる指導が必要です。

【英語】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して3.1ポイント上回りました。

「聞くことに」ついては、全ての問題で全国平均正答率を上回りましたが、欲しい情報を選んで聞き取ることについては、今後は特に意識して取り組むことが必要です。

「読むこと」については、概ね全国平均正答率と同等の結果でしたが、段落ごとの内容の捉え方や情報の正確な読み取りに課題が残りました。ポイントとなる接続詞（節）を理解の助けにしたり、様々な種類（テーマ）の文章に触れたりすることが重要です。

「書くこと」については、全ての問題で全国平均正答率を上回りましたが、正しい文構造を踏まえて文を書くことや、自分の意見や考えを文章でまとめることには課題があると言えます。
「話すこと」については、概ね全国平均正答率と同等の結果でしたが、日頃から目的・場面・状況に応じた意味あるやり取りを積み重ねること、そして自分の英語の運用について第三者からフィードバックをもらうことも有効です。

中学校３年生英語を除く、いずれの学年・教科において、本市の児童生徒の平均正答率は、全国の公立学校の児童生徒全体の平均正答率を下回っています。しかし、中学校３年生国語および数学については、ほぼ同程度とみることができます。

各学年・教科の課題については結果とともにお示ししています。中学校３年生の国語および英語においては、記述によって解答する問題の無解答率が全国平均を下回っており、これまでの指導の成果がうかがえます。今後も、日々の授業において、自分の考えを表現したり、記述したりする力を伸ばすことができるように指導するとともに、粘り強く課題に取り組む力を育成するように、指導改善を図ります。

（３）横須賀市立学校の質問紙調査結果

質問紙調査における小学校６年生・中学校３年生それぞれの質問事項のうち、本市の児童生徒の傾向と、全国の公立学校の児童生徒全体の傾向とが大きく異った質問事項は次の通りです。（「選択肢」に挙げた回答をした児童生徒の割合（複数の選択肢を挙げているものについては、それらの合計）について、本市と全国の値を比較し、その差が５ポイント以上の質問事項について示しています。）

【小学校６年生】

５ポイント以上低い質問事項

質問番号	質問事項	選択肢	本市(%)	全国(%)	差
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	63.2	68.5	△5.3
(16)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	「①よくしている」 「②ときどきしている」	61.2	70.7	△9.5
(17)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	「①３時間以上」 「②２時間以上、３時間より少ない」 「③１時間以上、２時間より少ない」	46.3	57.1	△10.8

(18)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	「①４時間以上」 「②３時間以上、４時間より少ない」 「③２時間以上、３時間より少ない」	17.4	24.7	△7.3
(20)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	「①２時間以上」 「②１時間以上、２時間より少ない」 「③30 分以上、１時間より少ない」	31.9	37.3	△5.4
(37)	学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	71.4	77.4	△6.0
(43)	国語の勉強は好きですか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	53.9	61.5	△7.6

【中学校３年生】

５ポイント以上低い質問事項

質問番号	質問事項	選択肢	本市（%）	全国（%）	差
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	56.7	66.4	△9.7
(16)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	「①よくしている」 「②ときどきしている」	48.3	55.0	△6.7
(20)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む、教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	「①２時間以上」 「②１時間以上、２時間より少ない」 「③30 分以上、１時間より少ない」	22.8	28.4	△5.6
(24)	読書は好きですか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	59.9	66.0	△6.1

(30)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	55.8	63.9	△8.1
(32)	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	57.5	63.2	△5.7
(57)	数学の授業の内容はよく分かりますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	67.7	73.3	△5.6
(58)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	70.2	75.8	△5.6

５ポイント以上高い質問事項

質問番号	質問事項	選択肢	本市(%)	全国(%)	差
(27)	学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日）活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか	「①３時間以上」 「②２時間以上、３時間より少ない」 「③１時間以上、２時間より少ない」	83.7	77.2	6.5
(33)	１、２年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	「①ほぼ毎日」 「②週３回以上」	84.6	61.1	23.5
(36)	１、２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	「①発表していた」 「②どちらかといえば、発表していた」	71.8	62.1	9.7
(43)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	82.8	72.6	10.2
(68)	１、２年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	71.8	63.8	8.0

(69)	１、２年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	88.0	78.7	9.3
(71)	１、２年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば、当てはまる」	86.6	80.7	5.9

先に示した「横須賀市立小・中学校学習状況調査」の結果と同様、家庭での学習習慣が身についていない児童の割合が、全国平均値よりも高い傾向がみられます。中学校３年生については、上記にあがっておりませんが、平日 30 分より少ない時間、または休日１時間より少ない時間しか勉強していない生徒の割合が全国平均値より高い傾向がみられます。また、小学校６年生・中学校３年生ともに、新聞を読まない児童生徒の割合が高く、平日に読書をしない児童生徒の割合についても、高い傾向にあります。

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できると回答している児童生徒の割合が低い傾向があります。「横須賀市立小・中学校学習状況調査」の結果においても、「いじめのサイン」、「対人ストレス」について課題がみられているため、児童生徒一人一人の状況を把握し、適切な指導及び支援を行うことが求められます。

学校で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用する頻度については、中学校３年生において全国平均値を大きく上回っています。１人１台端末の配備から３年が経過した中学校においては、ＩＣＴ機器が学習活動のツールとして定着していることがうかがえます。

３　本市の課題と今後の取組について

２つの調査の結果をふまえた本市の課題に対して、今後次のような取組を実施してまいります。

本市の小・中学校における課題	今後の取組
理由を説明したり、条件に沿って作文を書いたりするなど、記述することに課題がみられる。	記述、表現する力を伸ばすことができるような授業づくりを行う。特に、中学校においては、工夫して発表しようとする生徒の割合が高いので、それをきちんと記述する力につなげていく。
家庭での学習習慣が確立していない児童生徒の割合が高い。	学習意欲を高め、家庭での学習習慣を確立することができるよう、家庭と連携を密に取りながら、指導改善を図る。
新聞を読まない、平日に読書をしない児童生徒の割合が高い。	学校司書と連携しながら、学校図書館を利用した探究的な学習や読書指導の充実を図る。
人間関係にストレスを感じている児童生徒が一定数いる。	各学校において、学級担任だけではなく、全教職員で連携を図るとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどとも連携しながら、児童生徒の状況把握及び適切な支援に努める。